

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

1

2005 SUMMER
THE FIRST ISSUE



患者様から学び、患者様に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

愛媛県の地域医療に奉仕し、よりよい医療を提供するために



1973年、愛媛大学に医学部が創立され、1976年には愛媛大学医学部附属病院を設置。それからおよそ30年、私たち愛媛大学医学部および附属病院は、現在内科、外科をはじめとする16診療科（医療法による）を擁し、愛媛の地域医療と高度先端医療の双方を担う総合病院かつ研修センターとして着実に歩んでまいりました。

近年は臓器別診療と平行して、横断的診療体制が目立っています。当病院でも多岐の診療科に渡る各種センターを設立。例えば、脳卒中センター、新しい治療薬の開発などに貢献している創薬・育薬センターなど。また、この4月には、教育研究施設でもある低侵襲手術トレーニング施設も全



国の国立大学としては3番目に設置されました。このように地域医療の中核として、新たな診療体制を進めています。現在計画中的のものには、睡眠時無呼吸症候群の診療を、内科・耳鼻科・口腔外科などが協力して行う通称「イビキ外来」や、超高齢化社会に対応した抗加齢センターなどがあります。

患者様へのサービスとしては、医療福祉支援センターの積極的な活動、病棟においては緩和ケアグループなどのガンに対する総合的な診療体制、診療科の壁を取り払った栄養支援グループによる患者様の食事・栄養管理など、様々なサポートを行っております。

施設においても充実を図り、建物の再開発がほぼ完成し、外来及び入院患者様が快適に過ごしていただける環境が整いました。

中央診療システムも非常にグレードアップしており、新しくなった検査部では、短時間で検査結果を出せるようになりました。消化器や呼吸器などの内視鏡を扱う光学医療診療部は、全国一の敷地面積の中に、充実した設備を整えています。

当病院には、臨床においても優秀な医師たちが多く在籍し、治療で優れた結果を出しています。肝移植における四国のセンターに指定されておりますし、動脈硬化の遺伝子治療、がんの遺伝子治療の臨床応用を行うなど、先端医療についても、充実したスタッフが在籍しています。

大学病院には、患者様への医療の提供以外にも、教育・研究能力が備わっており、常に患者様へフィードバックできる医学研究に重きをおき、教育は学生に教えるだけでなく、若いドクターを専門医に育てていくことにも力を入れています。

このように、当病院は地域医療の中核として、よりよい医療、より高度で安心できる医療を、常に追求しながら、日々進化をしております。患者様はもとより、医療に携わる数多くの方々のご来訪をスタッフ一同お待ちしております。

診療科等一覧

内科系

血液内科
膠原病・アレルギー内科
感染症内科
循環器内科
呼吸器内科
腎臓・高血圧内科
消化器内科
内分泌・代謝内科
糖尿病内科
老年内科
神経内科
総合内科
創薬治療内科
精神科神経科
小児科

外科系

消化器外科
心臓・血管外科
呼吸器外科
乳腺・内分泌外科
小児外科
肝・胆・膵・移植外科
低侵襲・がん治療センター
脳神経外科
整形外科
皮膚科
泌尿器科
眼科
耳鼻咽喉科
放射線科
産科婦人科
麻酔科蘇生科
歯科口腔外科
救急部

術後の局所再発ゼロ。新しい先端医療も結果を出す治療法の一つ

整形外科 坂山憲史 医師



PROFILE

さかやまけんし◎愛媛大学附属病院・整形外科講師。医学博士。骨軟部腫瘍を専門に活躍する。1987年愛媛大学医学部医学科卒業、1993年愛媛大学大学院医学研究科修了。1996年第4回愛媛医学会賞、1999年度日本整形災害外科学助成財団賞を受賞。版画家、調理師、柔道部部長、医学部ラグビー部部長など、繊細かつ豪快で多様な側面を持つ。夜の街では「専務」と呼ばれている。

骨肉腫は、今や約8割の人が助かる病気です。かつては手術を繰り返すのみの治療で、ほとんど助けることができませんでした。現在は診断や手術の技術、抗がん剤治療などの向上により、生存率が飛躍的に高くなっています。私たちが手術した患者様においては、術後の局所再発（転移を除く）を認めていません。私たちは最先端と言われる治療方法や手術手技にいち早く取り組み、成果を上げています。その一部を挙げてみましょう。放射線の術中照射は、病巣に対して集中的に放射線を照射できるので、周囲の正常組織へのダメージを最小限に食い止めることもできます。この治療は日本国内のごく限られた施設でしか施行できない特別な治療法で、私たちの書いた放射線の術中照射についての論文は昨年、フランスの新聞「Zoom Cancer」に大きく

取り上げられました。腫瘍骨を液体窒素で凍結し、腫瘍を死滅させた後に体内に戻すという「凍結療法」の手術も、私たちは世界の最先端を走っています。今注目されているカフェイン併用化学療法、これは抗がん剤とカフェインを併用投与することで、抗がん剤の効果が増強するというものです。この療法も私たちは以前から取り組み、効果を上げています。このように、私たちの腫瘍チームは一丸となって、患者様を治療することだけを考え、日々努力しています。

私たち整形外科は学内でも紹介率が高い科ではありますが、もっと早期に紹介いただければ、というケースも少なくありません。できるだけ早期の検査や治療を施行することは、患者様にとっても望ましいことです。ので、早期にご相談、ご紹介いただければ、と思います。

「1秒でも早く」が循環器疾患の要。24時間いつでも診療できる病院へ

第二内科 岡山英樹 医師



PROFILE

おかやまひでき◎愛媛大学附属病院・第二内科講師。医学博士。循環器を専門に活躍する。1988年愛媛大学医学部医学科卒業、1994年愛媛大学大学院医学研究科修了。大学時代は野球部に所属。自宅のマッサージチェアに腰を下ろしたときが、一番ホッとできる時間。

私は循環器科の虚血性疾患を専門にしており、主にカテーテルを用いた治療を行っています。今年こちらの病院に戻ってまいりましたが、これまで年間450例ほどのカテーテル検査、150例ほどのカテーテル治療を行っていました。これから当病院が目指すのは、循環器疾患の受け入れ態勢をより強化することです。循環器の疾患は救急が占める割合が大きく、心筋梗塞などは、時間が早ければ早いほど救命できる確率は高くなります。急患に対して迅速に対処し、早期の治療をすることが重要です。24時間、いつでも患者さんを診察・治療できる体制づくりに取り組んでいます。いつでも、どんな些細な病状でも、気軽に診察や相談にきてください。当内科が若い医師に対する求心力をもつためにも、患者さんの来院を増やし、臨床を活性化する

事が大切だと思っています。

私が座右の銘としている言葉は、江戸時代後期の儒学者、佐藤一斎（さとういつさい）が残した「言志録」にあります。「凡（およ）そ事（な）すには、須（すべ）からく天（あま）に事（つか）うるの心（こころ）有るを要（よ）すべし。人に示（し）すの念（ねん）あるを要（よ）せず。」何かを成し遂げるには、天に仕えるという心を持つことが肝要、人に誇示するような私心があってはいけない。という意味。私は、天に仕えるという心とは社会に貢献する気持ちだととらえています。

循環器科の救急は、医師と看護師などのコメディカルとのチームプレイでないとできません。今よりは仕事量は増えるでしょうが、自分たちは社会貢献のためにやっているのだという思いがあれば、皆必ず動いてくれると信じています。

愛媛大学医学部附属病院 センター・施設のご紹介

お気軽にご相談ください

患者様のご相談・ご紹介等を承っております。ぜひ、ご利用ください。

医療福祉支援センター



「総合医療相談室」では、専任の医師や看護師・医療ソーシャルワーカーが、皆様の社会的・経済的・医療・看護等の不安や心配事に対し、専門的知識や情報をもとに調整し、少しでも解決できるようにご相談に応じています。

「地域連携推進室」では、地域医療機関・訪問看護ステーション・ヘルパーステーション・保健所・市町村保健センター・福祉行政機関・

医療福祉支援センターは、「総合医療相談室」と「地域連携推進室」の機能を併せ持ち、患者様やご家族に対する医療・福祉・看護相談等の医療サービスを行うと共に、地域の医療機関・福祉行政との連携や他施設との調整を図り、障害を抱えて退院する患者様や医療依存度の高い患者様・ご家族が安心して療養できるよう支援するセンターです。

在宅医療専門業者等と連携を取り、患者様やご家族が退院後も安心して在宅医療ができるよう、また、他医療機関・施設への円滑な転院を支援いたします。

またセンターでは、ご紹介くださる初診患者様のFAXによる診察予約を承っております。詳しくは、下記までお問い合わせください。

医療福祉支援センター

センター長:三木哲郎

副センター長:恩地森一、石原 謙、榎本真幸(専任)

TEL:089-960-5322/5261 FAX:089-960-5959

E-mail:sien@m.ehime-u.ac.jp

ぜひ、ご利用ください。

総合臨床研修センター

当センターは、研修医の卒後研修をはじめとする臨床研修をサポートするセンターです。

医学部、歯学部在籍中の学生で臨床研修を希望される方、医学部、歯学部を卒業された方で、臨床研修を希望される方を対象に、愛媛大学医学部附属病院、または愛媛県下での卒後研修などの情報提供をさせていただきます。



総合臨床研修センター

センター長:恩地森一

副センター長:高田清次

TEL:089-960-5098

FAX:089-960-5131

E-mail:kenshu@m.ehime-u.ac.jp

低侵襲手術トレーニング施設

内視鏡(腹腔鏡、胸腔鏡など)を中心とした低侵襲手術は、高度な技術が要求されます。

当施設は広く地域医療機関の医師、研修医、医療スタッフに対して開放し、内視鏡手術手技の習得に貢献することを目的に設立した研修施設です。広く受講生を募集しておりますので、ぜひ講習会などにご参加ください。



低侵襲がん治療センター

センター長:渡部祐司

副センター長:山下広高

TEL:089-960-5331

FAX:089-960-5335

E-mail:yuji@m.ehime-u.ac.jp

第17回
愛媛大学医学部附属病院
市民健康講座 開催

●日時
平成17年10月2日(日)
14時~16時

●場所
いよてつ高島屋 ローズホール9F

●テーマ
「見たい 知りたい 聞きたい
-私たちの身体の不思議-」

●講師
浜川裕之教授(歯科口腔外科)
山本晴康教授(整形外科)
横山雅好教授(泌尿器科)

●事前予約は不要です。
●参加料無料。
当日、会場までお越しください。

編集後記

愛媛大学医学部附属病院は県内唯一の大学病院として、地域医療の支援、先端医療の開発研究と臨床応用、優秀で心豊かな医療人の育成にまい進して参りました。また平成16年の国立大学法人化を機に、脳卒中循環器病センターを初めとした各種診療体制における抜本的改革を進めています。

このように進化しつつある大学病院の機能を多くの皆様により理解していただけるよう広くお知らせするため、情報誌「INVITATION」を発刊しました。

当誌では、当病院に新たに設置されたセンター・施設やその利用方法、専門医達を紹介してまいります。この情報を、地域医療に携わってられる先生方の診療や患者さんのためにぜひお役立てください。



◎愛媛大学医学部附属病院広報委員会
委員長 檜垣実男

◎表紙の人
大橋裕一 附属病院長
宇都宮温子 附属病院看護部長



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 Tel.089-964-5111(代)
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>